

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495000414	事業の開始年月日	平成26年6月1日
		指定年月日	平成26年6月1日
法人名	医療法人啓和会		
事業所名	グループホーム四谷上町		
所在地	(210-0828) 神奈川県川崎市川崎区四谷上8-7		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和7年8月23日	評価結果 市町村受理日	令和8年4月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員の長所を活かしたスキルの向上、研修参加によりリーダーの育成をすることと同時に、管理者候補の育成にも力を入れています。
介護の効率化と強いられる重労働から誰にでもできる介護の実践を目指しケアの工夫を行っています。
また啓和会グループの中で先進的にグループホーム四谷上町ではノーリフトケアを実践し腰痛予防や職員、利用者ともに負担の少ないケアの実践も行っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年9月24日	評価機関 評価決定日	令和7年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は「川崎」駅東口からバスに乗り、「四谷上町」バス停で下車後、徒歩3分ほどの所にあります。幹線道路から少し入った閑静な住宅街の一角に立地し、隣には幼稚園があります。本事業所は、平成26年度に医療法人が医療と介護の充実を目指して開設したグループホームです。

<優れている点>

ノーリフトケアを実践し、職員と利用者の双方の身体的負担軽減を図っています。全職員が床走行式リフト、スライディングシート、ボードなどの福祉用具を有効に利用することで、職員の腰痛予防につながっています。また、危機管理体制の強化を図るため、避難訓練を毎月実施し、全職員が非常時に対応できる体制を構築しています。訓練は火災想定場所を毎回変更し、利用者全員の避難完了まで7分以内を目指して実施しています。

<工夫点>

職員間の情報共有が円滑に行われるよう、議事録の記載方法や伝達方法に工夫を凝らしています。議事録は黒字を議題、赤字を管理者・主任の意見、青字を居室担当の意見として3色を使い分けて内容を明確にしています。これにより、居室担当者も意見を出しやすくなり、実施方法の変更などが、全職員で共有できるようになっています。また、医療関係の情報については、医師の診断が確定すると同時にSNSを利用して全職員に伝達しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム四谷上町
ユニット名	1F

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input checked="" type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	前任管理者より事業所理念は変更されていない為、改めて事業所としての理念を設定し職員間での共有の下実践につなげていきたい。	理念「①個人の尊厳ある生活の保持②利用者の意向に沿ったサービス③地域社会との連携」を掲げ、実現を目指しています。職員への周知は行っていますが、今後は現在の状況に即した新たな理念を作成する予定です。	管理者が考えている2本柱の理念「利用者目線の理念」と「施設としての理念」を職員と共に早急に作成し、実践に繋げることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の幼稚園とは大きなイベントを通してつながりを持つことができている。	コロナ禍後には以前のような地域との交流は一部制限していますが、幼稚園のとの交流は再開しています。夏祭りに参加したり、ハロウィンのお菓子を持って行ったりしています。また、自治会の盆踊りには利用者全員で参加し、踊ったり、見学したりしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々へ表立って共有する機会は設けられていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の場では報告の内容1つ1つに対して参加者に意見を求めることは行っている。あまり多くの意見を頂戴することは無いが、今後の運営に対して頂いた意見は貴重な考え方として元にすることもある。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催していますが、外部の出席者が少なく、現状報告が主となる傾向にあります。今後は、運営の透明性確保と地域連携の強化を図るため、外部からの意見交換を促進し、運営改善に繋げるよう努めていく予定です。	運営推進会議に出席できる行政、地域包括支援センター、地域の住民などの外部出席者を増やし、会議での意見交換を促進することが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	現在管理者が一元的に行っている。今後主任にも携わってもらい協力関係の強化を図ることを考えている。	川崎市保護課の職員と定期的に連絡を取り、利用者の健康状態や入退院等の報告、オムツ代の請求事務を行っています。法人として市に「小田地区の空き家情報」に関する研修を依頼しています。この研修には各事業所から職員が出席し、報告書を提出しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の理解を深める為、法人内においても研修の実施を行っている。また全職員研修参加は難しいが、研修の参加者を通して現場での伝達や、研修の資料を公開して職員全員が目を通す体制作りを行っている。	法人として拘束適正化委員会を設置し、各事業所では研修を実施することで、職員の身体拘束に対する理解を深めています。研修では具体的な事例説明を行い、内容の周知徹底に努めています。また、管理者が職員の行動に疑問を感じた際には、利用者のケアを行いながら、職員と個別に話し合い、自覚を促しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様の対応。	職員の専門性向上とケアの質を改善を図るため、3ヶ月に1度事例を挙げて話し合いを行っています。事例検討会は全職員が参加することになっていますが、参加できない職員は必ず記録を読むこととしています。事例に伴い、利用者の行動の関連性を深く考察し、個別の支援行動の見直しと検証につなげています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関係者とのやり取りは管理者が一元的に行っている。職員については法人内の研修に参加することで理解を深める機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が一元的に行っている。家族に対して十分な説明を行っているが、不安や不明点など契約後においても常時受付けており、理解や納得の解決に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設において常時受け付けており、また運営推進会議などにおいても改めて確認する機会を設けている。	利用者や家族の意見は、常時聞く体制を整備しています。面会は2日前の予約制としていますが、家族から「急に会いたい時もあるのでルールを緩和してほしい」との意見が出ています。この意見を受け、利用者の体調などを考慮し、柔軟に対応することとしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営という点において職員より意見や提案を聞く機会は少ないが、普段よりコミュニケーションをとることや、ユニット会議、個人面談にて意見を聞く機会は設けている。	主任会議およびユニット会議を通して、職員から運営に関する意見を聞いています。職員からは増員や、避難訓練の回数を年2回から毎月へ増やすなどの提案が出ています。これらの提案を受け、職員増員については1階と2階の職員を必要に応じて融通する対応を行い、避難訓練は毎月実施することとしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人で正職員に対しキャリアパス制度を設けており、向上心をもって働けるように努めている。一方で非正規職員には同じような制度はない為今後の改善や制度の整備が必要であると考えられる。	就業規則や人事考課制度などについては、入職時に説明を行い、職員は保有資格に基づいた職級制度を理解しています。職員の労働環境と健康管理の適正化を図るため、有給休暇は全職員が確実に消化できるよう努めています。また、全職員が年に一度健康診断を受診することになっています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年度毎に法人内研修を設けており、情報公表における必須の研修や法人での必須研修を設けている。また一定の要件を満たした際に資格取得のサポートも行っている。	職員の専門性向上とキャリア形成を図るため、個人面談を実施し、職員が必要とする資格やスキルを取得できるように話し合っています。職員は初任者研修や防火管理者などの資格を取得しています。また、資格取得に関しては事前申告することで、受験費用および交通費を事業所が負担することになっています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内研修が該当すると考えられるが、それ以外では殆ど機会はない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設入所をされて間もない利用者に対しては不安であることを念頭に置き、相手を理解するための声掛けや聞き取りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者本人の能力に応じた家事などの手伝いをお願いすることで役割をもって生活してもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会やイベントに参加していただき、利用者との関係が良好である様に努めている。また月報を通して利用者の現状を知って頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族のみならず友人が面会に来られることもあるが、職員が支援することはほとんどない。	家族の面会時には、お茶出しだけでなく利用者の状況説明などを行っています。1ヶ月に1回、月報として近況報告を送付しています。月報には、利用者の写真数枚と居室担当者の手書きによる詳細な様子を記載しており、家族が利用者の状況を具体的に把握できるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日のレクリエーションや季節ごとのイベントを通し、難しい利用者に対しては職員が携わることで行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を重視しているが、生活の質を考慮して可能な範囲で改善できる部分を一緒に行っている。	半年ごとのケアプラン変更時に、利用者の思いや意向を把握することにしてはいますが、普段の生活の中での言葉を大切にしています。自己決定権の尊重と個別ケアの実現を図るため、利用者からは「酒が飲みたい」「散歩に行きたい」「買い物に行きたい」などの具体的な希望が挙がっています。これらの意向は介護ソフトに記録し、全職員が確認できる体制にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス提供前のインテークの際に聞き取りを行い、事前に職員間で共有をしている。いつでも確認できるように個人のカルテにて保管をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録をもって職員間で共有している。普段と違う様子や、状態については申し送り注視をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャー、計画作成担当者を中心に本人の状態にあった介護計画を作成している。	入所時には初回の介護計画を作成し、ケアを開始します。その後、日常的なケアに基づいたモニタリングを実施しています。また、定例で年2回、モニタリングとアセスメントを踏まえて介護計画を更新しています。ケア記録は介護ソフトに記録し、全職員間で共有することで、日常のケアに活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要に応じて関係者と共有し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に一度の訪問診療を中心に医療との連携を行っている。また外来受診が必要な場合においても適宜可能な範囲で対応している。	利用者の同意を得て、運営母体のクリニックを提携医療機関とし、月2回の定期訪問診療を受診しています。また、夜間・休日も診療対応が可能な体制を整えています。提携医療機関で対応できない診療科については、必要に応じて外部の医療機関と調整し受診しています。職員は受診記録を共有し、日常のケアに反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	1週間に1度の訪問看護に情報、状態の共有を行い、適切なケアが行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族が望む今後を第一に考え、関係者との協議を設けて施設で対応できるケアを提供している。	重度化や終末期を迎えた場合の対応について、本人や家族の意向を尊重することを事業所の基本方針として職員に周知しています。提携医療機関の医師や看護師の意見も踏まえ、利用者の身体的負担軽減に努めると共に、きめ細やかな声掛けを行うなど、適切なケアを実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練を設けることはできていないが、管理者へ一報を行い指示のもと対応することとしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との連携、協力体制が不十分ではあるが、毎月避難訓練を行っており、全職員が災害時における対応を行うことができる。	年2回の消防訓練に加え、全職員の避難誘導標準動作の習得を図るため、毎月1回避難訓練を実施し、万一の事態に備えています。災害時にもサービスの継続性を確保するため、地震、台風、大雨を想定したBCP(事業継続計画)を整備し、机上訓練も実施しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日頃から声掛けには注意しており、利用者に合わせた携わり方を行っている。また法人内研修を通して理解を深める機会を設けている。	管理者は、利用者の尊厳の保持と質の高いサービスの提供を図るため、個性に合わせた言葉遣いや適切な接遇を職員に求めています。また、日常のケアにおいても、プライバシーの確保に十分配慮することを義務付けています。不適切な対応を発見したり、または報告を受けた場合には、個人面談を実施し事実を確認した上で、是正を行うよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者本位の携わり方を意識して声掛けには注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者本位の携わり方を意識して声掛けには注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容について本人の希望することがあれば支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、提供、片付けは職員が行っている。手作り料理やイベントを通し普段とは違う料理や店屋物などを提供して楽しんでもらえるようにしている。	日常の食事は調理済み食材の配食サービスを利用し、事業所で加熱・盛り付け、提供しています。食事の準備や片付けには利用者也参加・協力します。毎月のイベントや定例の行事食の際には、職員が手作りした料理やおやつを提供し、利用者が食事を楽しめるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分は利用者にあった勧め方を行うことで、1日全体を通しての摂取量の安定を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の身体能力にあった口腔ケアを行うことで清潔保持に注意している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者に合わせた排泄支援を行っている。日中、夜間で対応を変更したり、定時での声掛けやおむつ交換をしている。	利用者の自立度や残存能力に応じた排泄支援に取り組んでいます。排泄記録は、紙ベースの記録表に記帳し、この情報を基に、適切な声掛けや誘導を行っています。介護ソフトには夜間に一括入力することで、ケア記録として一元管理しています。また、排泄の自立に向け、体操への参加を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取強化を行ったり、毎朝の体操を通して便秘改善に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は日時、時間帯を指定しての対応となっている。	午前中に3名の利用者の入浴を行い、利用者一人当たり週2回の入浴機会を確保しています。入浴曜日と時間をあらかじめ利用者に伝達し、安心して支援につなげられるよう努めています。体調不良や入浴拒否時には、スケジュールを調整し、職員は利用者一人ひとりの状態に応じた柔軟で個別的な入浴支援を実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者本人の在宅時の生活スタイルに合わせて取り組んでいるが睡眠の質を考慮しての対応することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬効については周知されており、薬剤情報から服用している薬剤の効果を確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の能力にあったお手伝いをお願いしている。昔なじみの物があれば提供できるように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日とはいかないが、努めている。また施設にこもりきりにならないように最低限月に一度は外出や散歩、外気浴を行うよう体制づくりをしている。	職員は、盆踊りやハロウィンといった地域のイベントへの参加に加え、月に一回の日常的な外出や散歩ができるよう努めています。外出が困難な利用者には外気浴ができるよう配慮しています。外出やイベントの様子は写真を添えて、毎月のお便りで家族に報告しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者と家族との関係値もあるため事前に家族と打ち合わせの下、利用者の希望と合わせて支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	整理整頓を心掛け快適な空間を提供できるように配慮してしる。また係を設け施設美化を怠らないように努めている。	毎日清掃を行うとともに空気清浄機を使用して、におい対策を実施し、施設内の清潔を保持しています。利用者が季節を感じ、心地よく過ごせる環境づくりを図るため、各階ごとに美化係を設定しています。美化係は、季節の飾り付けや廊下の写真の見直しを適宜行い、居心地の良い共用空間づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所の際に馴染みのものを持ち込んだり、使い慣れたものを用意して過ごしやすい自室となるように努めている。	利用者は仏壇、テレビ、テーブルなどの使い慣れたものや馴染みの物を居室へ持ち込んでいます。持ち込まれたものは利用者の安全と使いやすさを配慮して設置しています。また、就寝時には転倒の安全に配慮し、ベッド下にマットレスを敷くこともあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの位置や自室が分かる様に表札を用意して自立した生活が送ることができるようにしている。		

事業所名	グループホーム四谷上町
ユニット名	2F

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3. たまにある <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input checked="" type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3. たまに <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3. あまり増えていない <input checked="" type="checkbox"/> 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	前任管理者より事業所理念は変更されていない為、改めて事業所としての理念を設定し職員間での共有の下実践につなげていきたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の幼稚園とは大きなイベントを通してつながりを持つことができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々へ表立って共有する機会は設けられていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の場では報告の内容1つ1つに対して参加者に意見を求めることは行っている。あまり多くの意見を頂戴することは無いが、今後の運営に対して頂いた意見は貴重な考え方として元にもすることもある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	現在管理者が一元的に行っている。今後主任にも携わってもらい協力関係の強化を図ることを考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の理解を深める為、法人内においても研修の実施を行っている。また全職員研修参加は難しいが、研修の参加者を通して現場での伝達や、研修の資料を公開して職員全員が目を通す体制作りを行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様の対応。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関係者とのやり取りは管理者が一元的に行っている。職員については法人内の研修に参加することで理解を深める機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が一元的に行っている。家族に対して十分な説明を行っているが、不安や不明点など契約後においても常時受付けており、理解や納得の解決に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設において常時受け付けており、また運営推進会議などにおいても改めて確認する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営という点において職員より意見や提案を聞く機会は少ないが、普段よりコミュニケーションをとることや、ユニット会議、個人面談にて意見を聞く機会は設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人で正職員に対しキャリアパス制度を設けており、向上心をもって働けるように努めている。一方で非正規職員には同じような制度はない為今後の改善や制度の整備が必要であると考えられる。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年度毎に法人内研修を設けており、情報公表における必須の研修や法人での必須研修を設けている。また一定の要件を満たした際に資格取得のサポートも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内研修が該当すると考えられるが、それ以外では殆ど機会はない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設入所をされて間もない利用者に対しては不安であることを念頭に置き、相手を理解するための声掛けや聞き取りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者本人の能力に応じた家事などの手伝いをお願いすることで役割をもって生活してもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会やイベントに参加していただき、利用者との関係が良好である様に努めている。また月報を通して利用者の現状を知って頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族のみならず友人が面会に来られることもあるが、職員が支援することはほとんどない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日のレクリエーションや季節ごとのイベントを通し、難しい利用者に対しては職員が携わることで行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を重視しているが、生活の質を考慮して可能な範囲で改善できる部分を一緒に行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス提供前のインテークの際に聞き取りを行い、事前に職員間で共有をしている。いつでも確認できるように個人のカルテにて保管をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録をもって職員間で共有している。普段と違う様子や、状態については申し送り注視をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャー、計画作成担当者を中心に本人の状態にあった介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要に応じて関係者と共有し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に一度の訪問診療を中心に医療との連携を行っている。また外来受診が必要な場合においても適宜可能な範囲で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	1週間に1度の訪問看護に情報、状態の共有を行い、適切なケアが行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族が望む今後は第一に考え、関係者との協議を設けて施設で対応できるケアを提供している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練を設けることはできていないが、管理者へ一報を行い指示のもと対応することとしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との連携、協力体制が不十分ではあるが、毎月避難訓練を行っており、全職員が災害時における対応を行うことができる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日頃から声掛けには注意しており、利用者に合わせた携わり方を行っている。また法人内研修を通して理解を深める機会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者本位の携わり方を意識して声掛けには注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者本位の携わり方を意識して声掛けには注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容について本人の希望することがあれば支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、提供、片付けは職員が行っている。手作り料理やイベントを通し普段とは違う料理や店屋物などを提供して楽しんでもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分は利用者にあった勧め方を行うことで、1日全体を通しての摂取量の安定を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の身体能力にあった口腔ケアを行うことで清潔保持に注意している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者に合わせた排泄支援を行っている。日中、夜間で対応を変更したり、定時での声掛けやおむつ交換をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取強化を行ったり、毎朝の体操を通して便秘改善に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は日時、時間帯を指定しての対応となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者本人の在宅時の生活スタイルに合わせて取り組んでいるが睡眠の質を考慮しての対応することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬効については周知されており、薬剤情報から服用している薬剤の効果を確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の能力にあったお手伝いをお願いしている。昔なじみの物があれば提供できるように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日とはいかないが、努めている。また施設にこもりきりにならないように最低限月に一度は外出や散歩、外気浴を行うよう体制づくりをしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者と家族との関係値もあるため事前に家族と打ち合わせの下、利用者の希望と合わせて支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	整理整頓を心掛け快適な空間を提供できるように配慮してしる。また係を設け施設美化を怠らないように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所の際に馴染みのものを持ち込んだり、使い慣れたものを用意して過ごしやすい自室となるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの位置や自室が分かる様に表札を用意して自立した生活が送ることができるようにしている。		

2025年度

事業所名 グループホーム四谷上町
作成日：2026年 4月 8日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	①	前任管理者より事業所理念が変更されていない。新しい理念を設定する必要がある。	早急に理念を設定するとともに職員への共有を行っていく。	理念を身近なものとして感じてもらうように、職員の思いも聞き取りを行いつつ理念の設定を行う。共有については会議の毎に確認を行うことで進めていく。	1ヶ月
2	④	会議等における外部の方の参加者が少なく、中々運営に対しての意見を頂戴する機会が少ない。	外部の出席者の参加を増やすことで運営における意見交換を活性化させたい。	まずは参加して頂くことを目標として、単発の案内とせず案内自体も何度かのアクションを起こすことで目に入る機会等を増やすことに繋げていく。	6ヶ月